

インターバンクの声（2016 年 3 月 7 日）

週末、海外の為替市場は、米雇用統計発表前とニューヨーク市場終盤の水準を比較して見るとドルは対円では大きな変化はなかったものの、対豪ドルや英ポンドではかなり値下がりした。ドル円にしても雇用統計発表直後こそドル買いになったが、直ぐに一旦ドルが高値から 1 円ほど下落する局面もあった。市場予想よりも増加した非農業部門就業者数を好感してドル買いに走ったものの、より注目度が高かった平均賃金や労働時間が前月水準を維持するどころか減少してしまったことで、改めて連邦準備理事会（FRB）が利上げは慎重になるとの見方に転じたことがその背景だ。この雇用統計への反応自体に大きな違和感はないが、むしろ WTI 原油価格が 2 ヶ月ぶりとなるような高値に戻っていたり、米国債利回りが上昇し続けていたにも関わらずドル買いへの動意が薄かったのが気になる。5 日に開幕した中国全人代会議では、李克強首相から今後 5 年間の国内総生産成長率目標が昨年の 7.0% 前後から 6.5~7.0% に引き下げる発表があった。こちらもほぼ想定通りだったが、今週は欧州中央銀行（ECB）理事会で追加緩和が市場が描いている規模の決定になるかどうか市場の一番の注目になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。